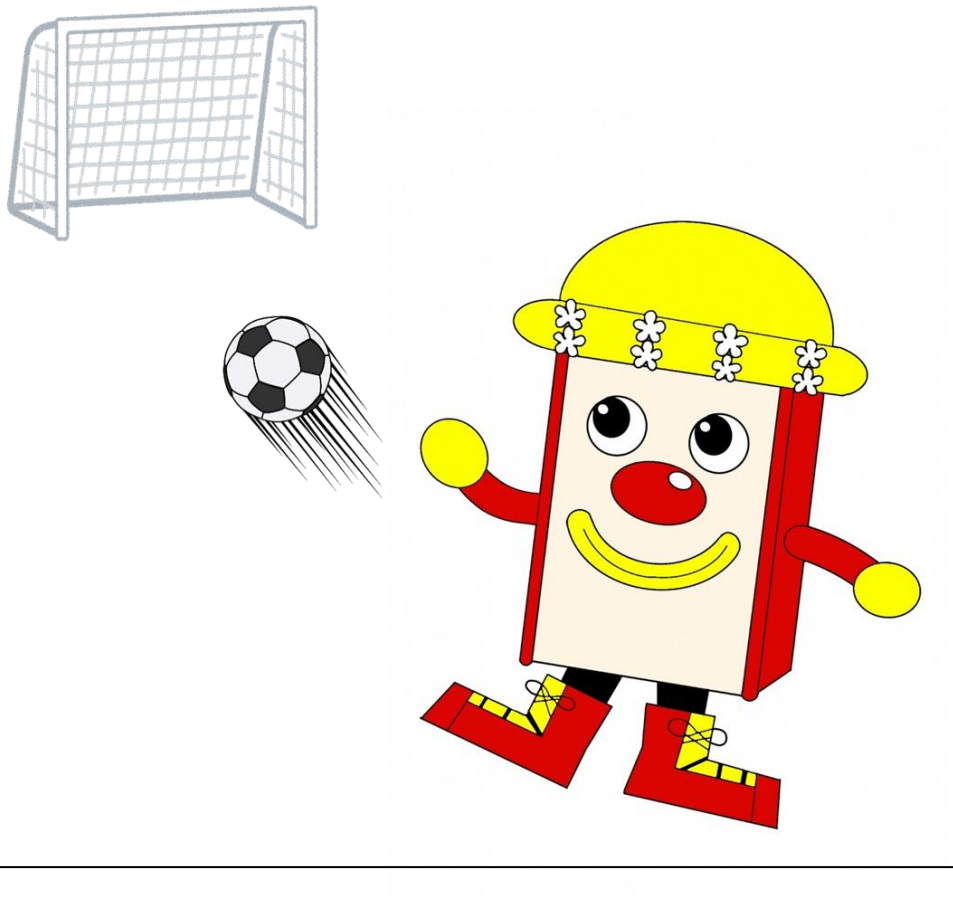
第16回よむゾーくん大賞
受賞作品集

2023年に読んだ本で、「感動した！」、「大好き！」、「これはいい！」など、藤枝市内の学生がおすすめしたい本を文章と絵で紹介する「作品」を募集しました。受賞作品をご紹介します。



ご予約はここをクリック

藤枝市立図書館に所蔵のある本は、
このボタンを押すと予約のページに移動します。

電子図書館はここをクリック

ふじえだ電子図書館に所蔵のある本は、
このボタンを押すと貸出・予約のページに移動します。

市長賞　小学生低学年の部

葉梨西北小学校　3年　**藤田　和瑳**　さん

『おやさいしろくま』

柴田　ケイコ／作・絵　　PHP 研究所

登場人物のしろくまが大すきなおやさいを見た時に、「大すきなおやさいの中に入ってみたらどんな感じかな。」と想ぞうしたのが始まりです。そして、いろんなやさいの中に入ったことを想ぞうします。いろんな入り方があっておもしろいです。とくにれんこんの入り方がおもしろいです。ぼくは、この本を見てぼくもおやさいの中に、入ってみたいと思いました。また、おやさいを食べたいと思いました。おもしろいのでぜひ読んでみてください。

市長賞　小学生高学年の部

藤枝小学校　5年　**鈴木　彩世**　さん

『中村哲物語』

松島　恵利子／著　　汐文社

皆さんは、中村哲さんを知っていますか。中村哲さんは医師です。パキスタンやアフガニスタンで医師として活躍し、さらに病気になる原因になる水不足のためにアフガニスタンで井戸を掘り、用水路を作りました。用水路のおかげでたくさんの人が救われました。「どの場所、どの時代でも、一番大切なのは命です。」の言葉は、誰もが心に留めおくべきと思います。「人間の真心を守ることが大事」私にはとても響きました。ぜひ読んで下さい。

市長賞　中学生の部

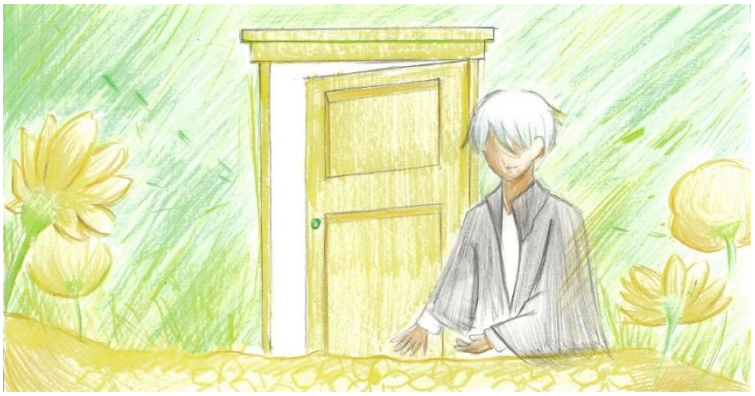
青島北中学校　3年　**勝政　心香**　さん

『さよならの向う側』

清水　晴木／著　　マイクロマガジン社

電子図書館は
ここをクリック

ご予約は
ここをクリック



人は亡くなった時に、「さよならの向う側」と呼ばれる場所に行く。そして、そこの案内人は言います。「あなたが、最後に会いたい人は誰ですか？」しかし、会えるのはその人が死んだことをまだ知らない人だけ。この本は、さよならの向う側を訪れる人々と案内人がつくる最後の再会を描いた物語です。今、自分のそばにいてくれる人と過ごせるよろこびを改めて感じさせられます。心温まる感動のラストに涙が止まりません。ぜひ読んでみて下さい。

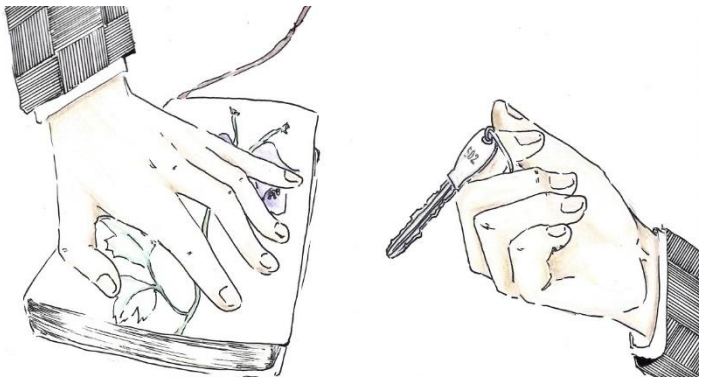
市長賞　高校生の部

静清高校　2年　**田中　心晴**　さん

『本と鍵の季節』

米澤　穂信／著　　集英社

ご予約は
ここをクリック



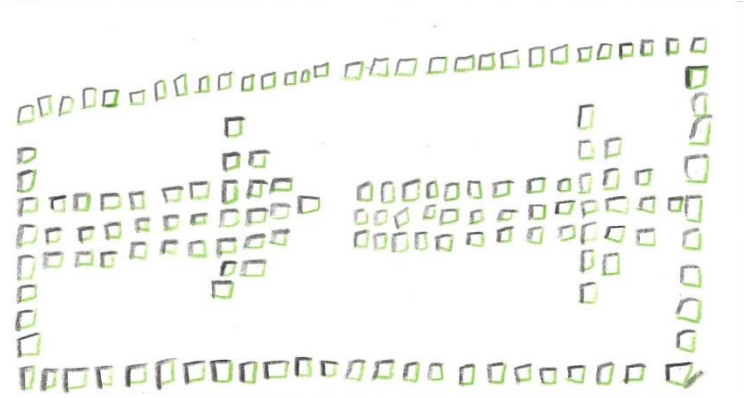
高二で利用者の少ない図書室の図書委員、堀川次郎。同じ当番でほどよく皮肉屋な松倉詩門。二人のもとに持ち込まれてくる謎。懐疑的で推理力に長けている松倉と人となりや着眼点の良い堀川が知恵や推理を補完し合い真相を解き明かしていく。
二人の間に生まれていく爽やかな友情とほんのりビターで重めなミステリー。二人みたいな青春を一度でも良いからしてみたい、そんな気持ちになれる満足感溢れる青春ミステリー。

教育長賞　小学生低学年の部

瀬戸谷小学校　2年　**坂元　歩** さん

『101のビジュアル・イリュージョン』

サム・タプリン／文　　東京書籍
マット・ダーバー　ほか／絵
神田　由布子／訳



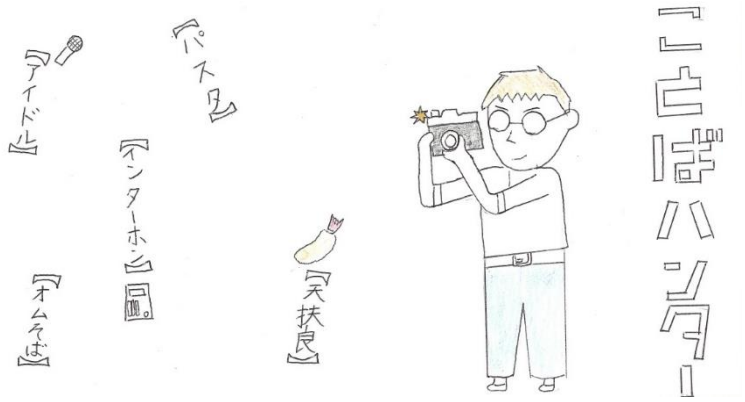
ぼくが、しょうかいしたい本は、だまし絵が101このっている「101のビジュアル・イリュージョン」です。
とくに気に入っているだまし絵は、やじるしがうごく？です。上下にうごきながら見ると、やじるしが右に行ったり、左に行ったりしてふしぎだからです。そのヒミツは、白と黒のふちどりのかき方でした。し組みが分かると、なるほど！と、びっくりします。
ほかにも、線や場しょのはいち、形のだまし絵があっておもしろいです。

教育長賞　小学生高学年の部

青島小学校　6年　**森田　晴** さん

『ことばハンター
国語辞典はこうつくる』

飯間　浩明／著　　ポプラ社



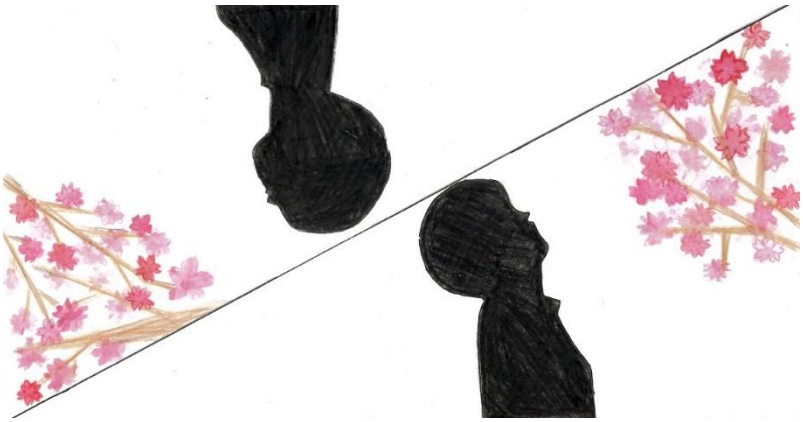
みなさんは国語辞典はどのように作られていると思いますか？本を作っている人がいるように、国語辞典を作っている人だっています。筆者の飯間浩明さんは国語辞典を作るためにことばを集める人。通称、ことばハンターです。飯間さんはこの本を通じて読者にことばの世界のおもしろさを伝えてくれます。読み終わった後に周りを見わたすと、読む前とことばの感じ方が違うように見えました。ぜひ読んでみてください。

教育長賞　中学生の部

青島中学校　1年　**片山　こゆき**　さん

『最後の医者は
桜を見上げて君を想う』

二宮　敦人／著　　TO ブックス



この本は、余命宣告をされた患者さんと、正反対の考え方を持つ二人の医者の葛藤を描いた物語です。最後まで生を諦めない医者・福原と、死を受け入れ残された時間を大切に生きる道をすすめる医者・桐子。この二人が出した選択肢の中で、患者はどちらの選択をするのか、そしてどのような結末を迎えるのか。二人の医者と患者の葛藤や、患者それぞれの病気と闘う姿に心を揺さぶられます。ぜひ、読んでみてください。

教育長賞　高校生の部

藤枝西高校　2年　**池上　晴菜**　さん

『蛍と月の真ん中で』

河邉　徹／著　　ポプラ社

主人公は大学を休学した一人の青年。他に行く場所もなく、昔写真で見たことがあった長野の辰野へ行く。真夜中の公園で出会った明里を始め様々な人と出会い、一度心が折れかけた「写真」ともう一度向き合うことができる。辰野の風景や雰囲気が詳しく描かれているため、読んでいると自分も辰野に住んでいるような気分になれる。主人公匠海の心が自立してどんどん成長していくのを感じることができる、今の私達にぴったりな本です。

図書館協議会長賞　小学生低学年の部

青島東小学校　3年　**植田　夢穂**　さん

『“いのち”のすくいかた』

児玉　小枝／写真・文　　集英社

動物収容施設では、迷い犬や飼えなくなった犬猫が毎日つれてこられます。そして、期限内に飼い主が見つからないと、ガス室で殺されてしまいます。飼い主の都合だけで安楽死でもなく、こんなやり方で殺されてしまうなんて、ひどいと思いました。でも、ここで新しい飼い主に出会えて幸せになる犬猫もいます。
そのことをこの本でみんなに知ってほしいと思いました。
私が犬や猫を飼うときは、保健所などからお迎えして、最後まで大切に育てたいです。

図書館協議会長賞　小学生高学年の部

青島小学校　4年　**植田　翔斗**　さん

『池の水なぜぬくの？』

安斉　俊／著・絵　　くもん出版
勝呂　尚之／監修

この本は、池の水をぬく理由を、著者が体験したこととともに説明しています。ため池は水がいつでも使えるように工夫があることを知り、池の見かたが変わります。聞いたことのない生物の名前が出てきますが、写真もついて細かく説明してるのでわかりやすいし、池の大切さがもっと深まります。いろいろな生物たちを生きやすくするために池の水をぬく意味がわかっておもしろかったです。ついつい読んでしまうので、ぜひ手に取ってみてください。

図書館協議会長賞　中学生の部

葉梨中学校　1年　**皆倉　耀佑**　さん

『人がつくった川・荒川』

長谷川　敦／著　　旬報社

あなたは「荒川」を知っていますか？この川は、日本の大都市・東京を流れており、約百年前に、人の手によってつくられました。実はこの荒川は、首都圏を水害から守るために大きな役割を果たしてきました。そしてこの本では荒川が誕生するまでの知られざる歴史と、荒川をつくるためのとてもたくさんの人々の苦労が細かく描かれています。昔の人たちの「暮らしを豊かにしたい」という思いは今も通ずる部分があると思うので、是非読んでみてください！

図書館協議会長賞　高校生の部

静清高校　3年　**永井　啓翔**　さん

『龍の本』

土屋　禮一／著　　ビジョン企画出版社

「龍」それは、私たちにとって身近な伝説の生物。これしか龍について知らなかった私は、この本に出会い龍に強い魅力を感じる様になりました。
この本に載っている数々の龍図は、そのどれもが迫力満点で、今にも動き出しそうな程生き生きしており、龍好きであれば魅了される事間違いなしです。
その他にも「龍の話」や「龍の形態学」は龍について深く知る事ができ、龍好き・龍に少しでも興味のある方必見の内容となっています。